



公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

2018年度プラン・インターナショナル年次報告書

PLAN INTERNATIONAL ANNUAL REPORT 2018

2017/7～2018/6

2018年度の
成果

7,315万
5,551人
に支援

1,748
のプロジェクトを
実施

5万4,352
の村で活動

184万
1,381人
にジェンダー平等と
子どもの保護に関する
トレーニングを
実施

5万1,581
の政府や自治体、企業、
支援団体、
住民組織と連携

3万4,285人
の政府関係者などへ
女の子の権利について
アドボカシー
実施

CONTENTS

- 2 2018年度のハイライト
- 3 ごあいさつ
- 4 プラン・インターナショナルの
2018年度
- 6 数字で見るプラン
- 8 活動分野の成果
- 10 プラン・スポンサーシップ
- 12 ガールズ・プロジェクト
- 14 グローバル・プロジェクト
- 16 緊急支援
- 18 一口100万円プロジェクト
- 19 オーダーメイド・プロジェクト
- 20 アドボカシー・
開発教育・公的機関との連携
- 22 活動を支えてくださる企業のCSR
- 24 活動地域の子どもたちから
- 26 活動国の基本統計一覧2018
- 27 日本のプランの決算報告
- 30 国際連結決算報告
- 31 プログラム費用別内訳

ごあいさつ



公益財団法人
プラン・インターナショナル・
ジャパン理事長

池上清子

Profile

いけがみ きよこ
2016年公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長に就任。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連本部、（公財）ジョイセフ、国際家族計画連盟（IPPF）、国連人口基金（UNFPA）を経て、現在、長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、日本赤十字社理事。

日ごろからの温かなご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。皆さまのご支援で、2018年度（2017年7月～2018年6月）もプラン・インターナショナルは世界の子どもたちに確かな変化をもたらすことに専念することができました。ここに、その報告書をお送りします。

2018年度は2017年度に見つけた課題を具体的に解決するために歩みをすすめた一年でした。

ひとつ目は、プランのアジア地域の連携強化です。アジア地域では活動国と支援国の両方の機能をもつ国が増えつつあります。プランが国際NGOとしてさらに成長するために、アジアの役割は大きくなっています。こうした状況でアジア地域の国々がお互いに助け合い、プランの意思決定過程に今までよりも貢献していく体制を整えることが重要だと考えました。この結果、日本や韓国、インドなどの支援国を中心に「アジア・フォーラム」という会議を実現することができました。来年度は日本で開催し、アジア地域のさらな

る連携強化をすすめていきます。

ふたつ目は、1億人の女の子が「Learn、Lead、Decide and Thrive（学び、先頭に立ち、自分で人生を決定し、差別や暴力のない環境で成長できる）」世界を実現するという2017年度からの5カ年計画に向けた具体的な施策策定への着手です。予算の確保を含めた具体的な計画がグローバルですんでいます。

そして最後は、日本国内での支援事業の検討です。これまでも東日本大震災をはじめ、国内の緊急支援活動を行いました。昨今の国内事情を鑑み、支援のニーズが高い日本の子どもや女性たちを対象に恒常的に活動する必要性を調査しました。「持続可能な開発目標（SDGs）」が「誰も取り残さない」世界を目指すとき、それは日本の社会にも当てはまるからです。

これからの一年も、より多くの方々にプランの活動を知っていただけるような情報発信や政策提言を活発に行い、質の高い活動を行ってまいります。何卒、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

評議員・役員・顧問名簿 ※特に記載がないものは非常勤

2018年10月1日現在

評議員会議長	松井 陽	聖路加国際大学看護学部特任教授
評議員	飯田百合子	トライブルー・ホールディングスPte.Ltd.最高執行責任者
評議員	一井呉夫	株式会社AMS顧問
評議員	甲斐田万智子	文京学院大学教授、認定NPO法人国際子ども権利センター（C-Rights）代表理事
評議員	河口真理子	株式会社大和総研調査本部主席研究員
評議員	倉林栄一	日本AMC株式会社代表取締役
評議員	佐藤大吾	一般財団法人ジャパングビング代表理事
評議員	平 久直	税理士
評議員	轟木洋子	公益財団法人公益法人協会評議員
評議員	畠澤 保	弁護士
評議員	増田明美	スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授
評議員	南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究本部長
評議員	宮代昌三	八丈ビューホテル株式会社代表取締役
理事長（代表理事）	池上清子	長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、日本赤十字社理事
副理事長（業務執行理事）	粗 信仁	政策研究大学院大学政策研究院参与
専務理事（代表理事）	棚田雄一（常勤）	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン専務理事
理事	大崎麻子	関西学院大学総合政策学部客員教授
理事	富本幾文	山口大学経済学部教授（特命）兼副学長補佐
理事	半田 滋	アジア アフリカ インベストメント アンド コンサルティング Pte. Ltd.ダイレクター
理事	森 和之	前都市総合サービス株式会社代表取締役社長
理事	安田尚代	外国法事務弁護士
監事	青木雄二	公認会計士
監事	中田ちず子	公認会計士、税理士
顧問	川上隆朗	元国際協力事業団（JICA）総裁

評議員 13 名、理事 8 名、監事 2 名、顧問 1 名

プラン・インターナショナルの2018年度（2017年7月～2018年6月）

日本を含む世界中で緊急・復興支援を実施



緊急支援物資の配布（南アジア洪水緊急支援、インド）



九州北部豪雨緊急支援で活動する番場職員と青木職員

ネパール大地震後の被災地を日本人職員が調査

2017年 8月

2015年のネパール大地震による復興の状況を把握するために、職員2人が被災した地域を視察。住民への聞き取りなどを通じ、ニーズに基づいた長期的な地域開発活動の内容について、現地職員と話し合いを実施。



被災した家族を訪問する竹崎職員と海藤職員

通年

90の緊急支援を実施

世界では洪水、台風、地震などの自然災害や難民問題が深刻化。プランは災害で最も影響を受ける子どもや女性の保護など、ジェンダーに配慮した活動を世界中で実施。

2017年 7月～8月

九州北部豪雨緊急支援

日本では7月に発生した九州北部の豪雨被害への対応のため、職員5人体制で2カ月間支援を実施。避難所5カ所に支援物資を提供したほか、3カ所で「子どもひろば」を運営。

国内支援事業の検討を本格化

2017年 7月

日本国内での女の子や若い女性、子どもを取り巻く貧困などの問題が深刻化していることから、災害時の緊急支援に加えて、恒常的に国内での支援活動を実施することを決定。対象地域などについて調査するなど、具体的な活動計画の検討を本格的に開始。プロジェクトの開始は2019年7月頃を目指す。



国際ガールズ・デーでメッセージ発信とアクション実施

2017年 10月11日

Girl's leadership
(ガールズ・リーダーシップ)

日本では東京都知事と都議会議長と副議長に、女性の政治参加や若者の意見を取り入れることを提言。世界では60カ国で決定権をもつリーダーに対し、女の子の権利を訴える600以上のアクションを実施。



小池百合子東京都知事に提言をわたすプランのユース代表 撮影：金井塚太郎 / プラン・インターナショナル



23歳の女性がトルドー首相に仕事を教わる（カナダ）

トークイベントの開催

Because I am a Girlエンジェルの森星さん、ネパールの女の子が登壇するトークイベントなどを六本木で開催。



森星さんとネパールの女の子たち 撮影：金井塚太郎 / プラン・インターナショナル

教育の必要性を国際社会へ訴える



GPEに参加してユースの提言を行った女の子たち

国際女性デーに日本でイベント開催

2018年 3月8日

サッカー日本女子代表前監督の佐々木則夫さんをお迎えし、プラン・インターナショナル理事大崎麻子とのトークイベントを開催。「今、男性ができること。女性の可能性は無限大」と題し、女の子や女性がリーダーシップをとっていくために必要なエンパワーメント、そしてジェンダー平等の実現のために、人々が変えていくべき意識、行動などについて、男性の視点を交えたトークを展開。



佐々木前監督（右）とプラン理事の大崎

2018年 2月

教育のためのグローバル・パートナーシップの会議に参加（Global Partnership for Education）

プランからは、女の子4人が参加し、質の高い教育を呼びかけるユース宣言を発表。

2018年 6月

G7サミットに提言

「危機状況下にある女の子のための教育支援」のために各国首脳と外務大臣宛のSNSキャンペーンと署名活動を実施。



G7関連の会議で女の子の地位向上や参加を求めるプランの代表

CEOが持続可能な開発目標の達成を呼びかけ

2018年 1月

プラン・インターナショナル最高経営責任者アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセンが世界経済フォーラムの年次総会に招へいされ、持続可能な開発目標を達成するための国際的な協力を世界にむけてメッセージを発信。



世界のリーダーと市民に対し提言する CEO

新たに3人が活動国に赴任

皆木昭宏職員（2017年11月よりグアテマラ赴任）、西田亜理沙職員（2018年1月よりウガンダ赴任）、中島泰子職員（2018年2月よりウガンダ赴任）が現地でプロジェクト管理運営にあたる。現在、日本人の海外駐在員は4か国5人。



学校でのジェンダー平等を推進する皆木職員



南スーダン難民居住区で活動する西田職員



南スーダン難民対象の保健プロジェクトを担当する中島職員

支援名称の変更

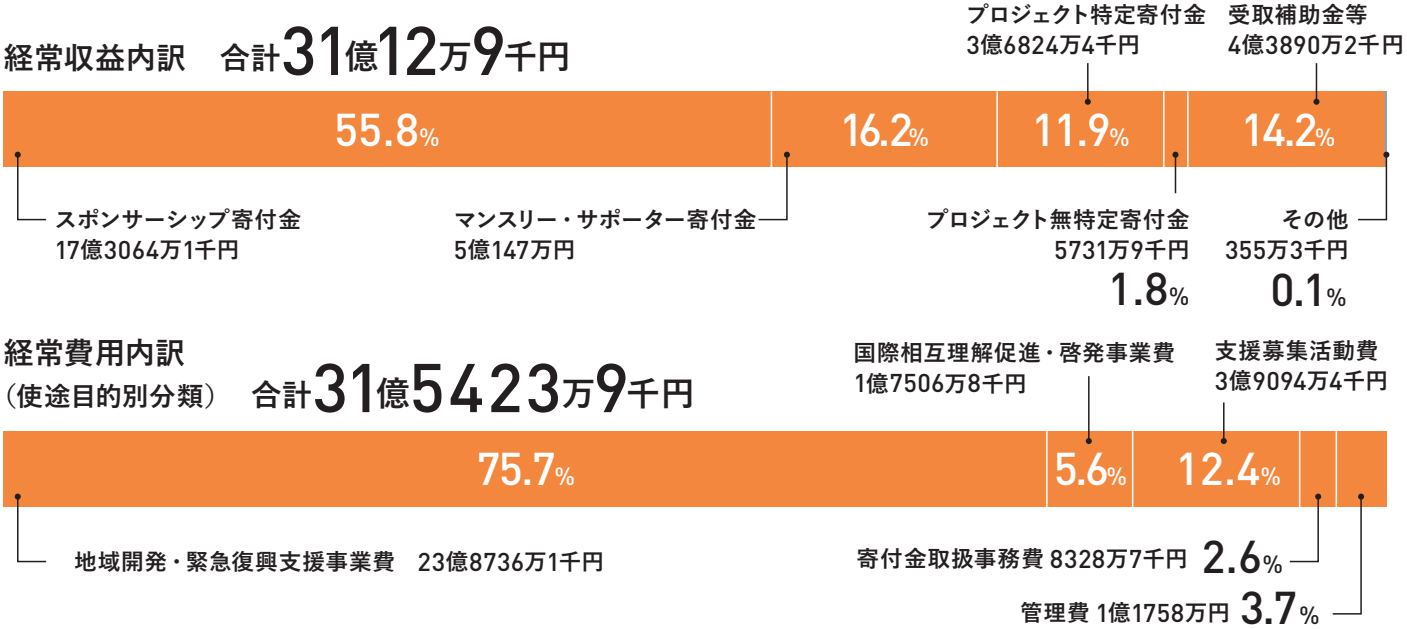
2018年 4月

今日の世界情勢や子どもたちのニーズにいっそう寄り添った活動を行うために、各支援のテーマや対象をより明確化させるため、Girl's Project 継続支援はガールズ・プロジェクト、プラン・マンスリー・サポーターはグローバル・プロジェクトと名称を変更。

2018年度 プラン・インターナショナル決算の概要

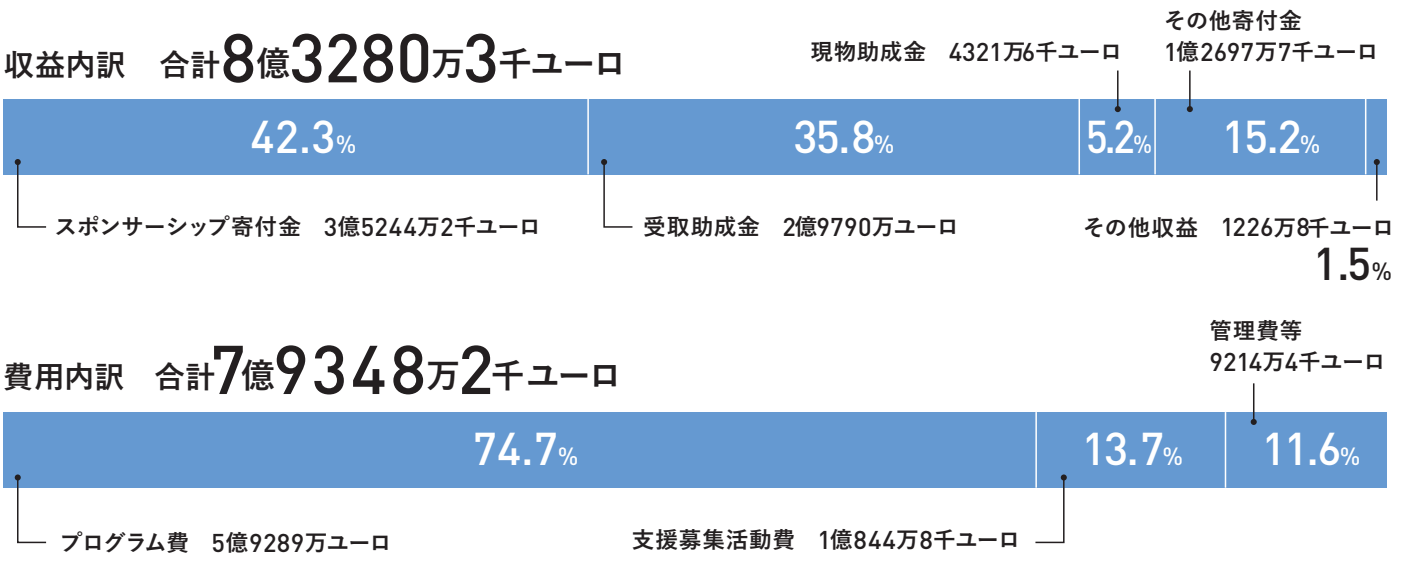
日本のプランの決算概要

2017 年 7 月 1 日から 2018 年 6 月 30 日まで ※詳細は P27 をご覧ください

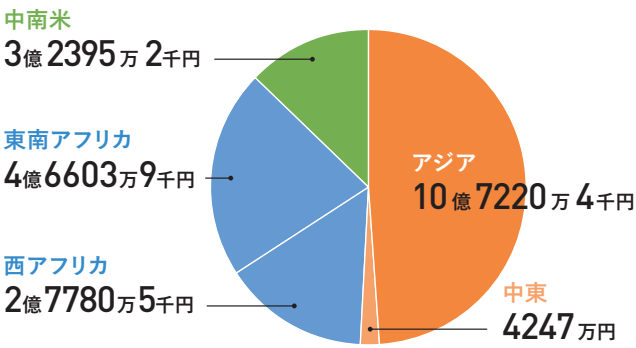


世界のプランの決算概要

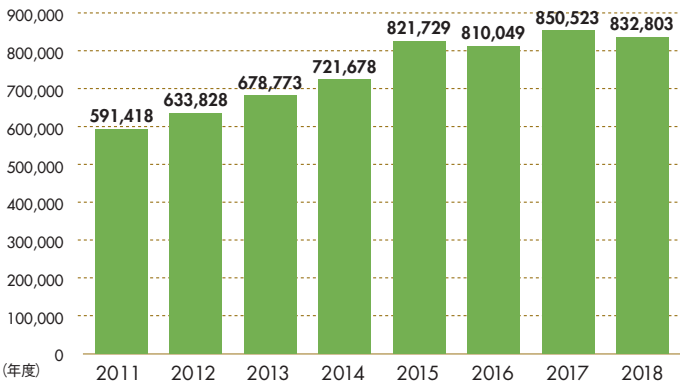
2017 年 7 月 1 日から 2018 年 6 月 30 日まで ※詳細は P30 をご覧ください ※1 ユーロは約 127 円です (2018 年 6 月現在)



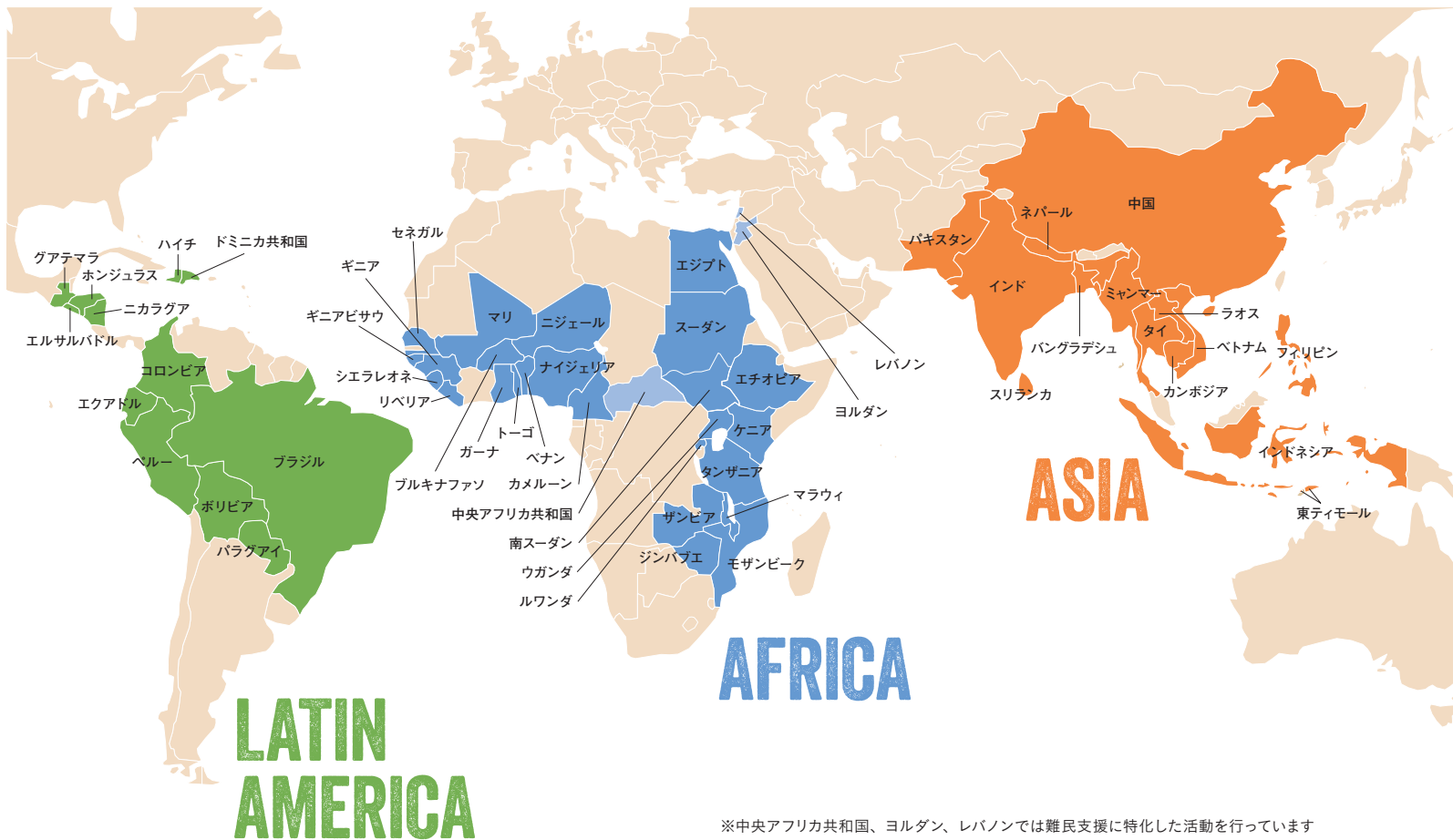
日本のプランの地域別支援額



世界のプランの収入額の推移 (単位: 1,000 €)



プラン・インターナショナルの活動地域とデータ



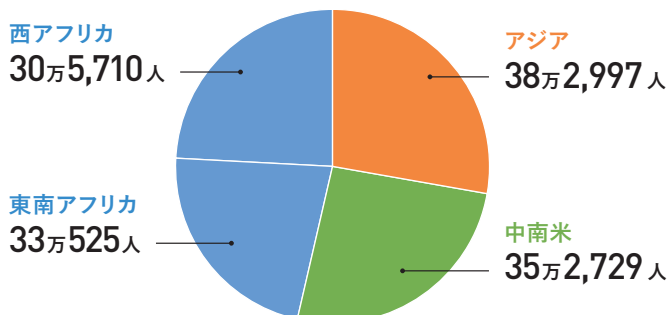
日本のプランのデータ (2018 年 6 月 30 日現在)

職員数	62 人
ボランティア数	653 人 (在宅 605 人、来局 48 人)
ユース・アドバイザー・パネル	7 人
プラン・フレンズ (開発教育ボランティアグループ)	14 人
G-School (学生ボランティアグループ)	17 人
プラン・スポンサーシップ支援者数	3 万 4,181 人
プラン・スポンサーシップチャイルド数	3 万 7,069 人
スポンサーからチャイルドへの通信物数	3 万 700 通
チャイルドからスポンサーへの「1年のあゆみ」と手紙	6 万 6,577 通
コミュニティ訪問	20 件、29 人
グローバル・プロジェクト継続支援者数	1 万 3,102 人
ガールズ・プロジェクト継続支援者数	1 万 206 人
プロジェクトを指定してよせられた支援件数	9,489 件
緊急支援によせられた支援件数	4,330 件
オーダーメイド・プロジェクトと一口 100 万円プロジェクト実施件数	34 件
補助金による実施プロジェクト件数	23 件
日本で支援した子どもの数	125 万 5,000 人

世界のプランのデータ (2018 年 6 月 30 日現在)

支援国数	21 カ国
活動国数	51 カ国
プラン・スポンサーシップ支援者数	106 万 5,055 人
プラン・スポンサーシップチャイルド数	137 万 1,961 人
年間に行ったプロジェクト数	1,748 プロジェクト
職員数	1 万 189 人 (活動国のみ)

チャイルドの住む地域



2018年度の活動テーマと成果

プラン・インターナショナルは子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を目指しています。ジェンダー平等な社会は、地域経済や次世代にもよい波及効果をもたらし、女の子だけではなく、男の子や男性を含むすべての人々にとって、豊かな社会となるからです。その実現により近づくために、活動をすすめました。

すべての活動は、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals) の達成に貢献しています。



誰もが質の高い教育を受けられるために

どのような状況下にあっても、誰もが等しく、継続的に質の高い教育を得られるように支援します。

1,194万7,700人を支援

2018年度に注力した活動事例

- 中途退学した子どもや若者への非公式教育と復学支援
- 自然災害や紛争の影響下にある子どもたちの教育支援
- ジェンダーに基づく暴力や差別のない学校づくり



若者が生計向上の手段を得るために

必要な技術を身につけ、職を得たり、みずから起業したりすることで経済力をもてるように支援します。

481万2,396人を支援

2018年度に注力した活動事例

- 村落貯蓄貸付グループの結成と運営支援
- 職業訓練や個人での起業支援
- 学校でのキャリア・金融教育の導入やライフスキル教育



女の子と若い女性の性と生殖に関する健康と権利を守るために

女の子と若い女性が正しい知識を得て、自分の身体に決定権をもち、一生涯にわたり健康に過ごせるように支援します。

823万7,774人を支援

2018年度に注力した活動事例

- 学校における包括的性教育の実施
- 月経衛生管理
- 早すぎる結婚や心身を傷つける習慣の撤廃



子どもの健やかな成長のために

すべての子どもたちが、安全な環境のもとで健やかに成長できるように支援します。

2,829万4,424人を支援

2018年度に注力した活動事例

- 栄養改善、小児疾患に対する総合的な取り組み
- 衛生状態の改善や安全な水の確保
- 地域を拠点とした乳幼児教育



子どもや若者が社会変革に参加するために

女の子、男の子、若者が声をあげ、その意見が尊重され、政策や人々の意識、行動が変わるように力づけます。

457万771人を支援

2018年度に注力した活動事例

- 女の子のリーダーシップ育成と政策提言
- 若者によるメディアを通じた情報発信
- 子どもや若者組織とのネットワーク強化



子どもを保護するために

疎外され弱い立場にある子どもたちへの差別、とくにジェンダーに基づく暴力から子どもたちの安全を守ります。

1,116万1,839人を支援

2018年度に注力した活動事例

- 地域を拠点とした子どもの保護システムの確立
- 人身売買、児童労働などの搾取防止
- 女の子にとっての安全なまちづくり



緊急支援

人々の尊厳を守り、レジリエンス（回復力）を高めます。とくに影響を受けやすい女の子のニーズに配慮します。

1,425万7,927人を支援

2018年度に注力した活動事例

- ロヒンギャ難民支援
- 南スーダン難民支援
- シリア難民支援



2018年度の実績

世界106万5,055人

(日本3万4,181人を含む)

皆さまから募ったご寄付で、

「ジェンダー平等とソーシャル・インクルージョン

(社会的包摂)」を活動の支柱に据えて、

さまざまな活動を実施することができました。

その一部をご紹介します。



*会計の詳細については P28-29 をご覧ください

女の子の教育改善

ケニア

- 活動と成果**
- ① 長距離通学をしている生徒への通学用の自転車を提供(3,054人、うち女の子2,137人) と学費支援(378人、うち女の子213人)
 - ② 教育の重要に関する保護者への意識啓発活動(保護者784人)

女の子が安全に通学するために



通学用の自転車をプランから受け取った生徒

ニャンザ州キスム県では小学校から中学校への進学率が低いことが問題です。その理由が家から学校までの距離が遠いことです。通学のときに、女子生徒はオートバイの運転手に頼らざるを得ず、その結果、オートバイの運転手による性的虐待の被害にあうなど、深刻な問題が発生していました。

女の子の通学を自転車で応援

このため、おもに女の子を対象に通学困難な生徒たちへ自転車を提供することで、多くの生徒が安全に通学できる環境を整えました。また、経済的な理由により学費が支払えず、休みがちな生徒には、学費を支援することで、継続的に通学できる体制を整えました。これにより、慢性的な欠席率が男女と

もに減少し、さらに生徒たちの成績にも改善がみられました。一方、保護者を対象に、教育の重要性を認識してもらう啓発活動を教育省やパートナー団体とともに実施しました。その後、保護者たちは、子どもたちの教育のために積極的に学校へ協力するようになりました。

参加者の声

学費支援を受けた女の子

シャロンさん (16 歳)

.....
学費支援のおかげで学校に通い続けることができています。学年末テストの私の成績はDからCへと上がりました。私は学校で時間管理と成績がもっとも向上した生徒として表彰されました。

ジェンダー平等トレーニング

ペルー

- 活動と成果**
- ① トレーニングを受けた若者120人が、地域や学校を拠点に知識普及や意識啓発活動を実施(若者2,000人以上)
 - ② 10代の妊娠や性と生殖に関する健康、性暴力の防止などに関するトレーニングを実施(教師390人)

変化をもたらし若者たち



ピア・エデュケーターのグループ

クスコ県は10代の女の子の妊娠が多く、またHIV/エイズや性感染症に関する知識の低さが問題となっています。またジェンダーに基づく暴力もあることから、プランは若者たちとともに性と生殖の権利に関する知識の理解を深める活動や、ジェンダーに基づく暴力や10代の妊娠を防止するための活動を行っています。

女の子と男の子が一緒に解決する

研修を受けた生徒グループ120人が中心となって、学校や地域を拠点に、早すぎる妊娠や性と生殖に関する健康、ジェンダーに基づく暴力や暴力のない人生について、2,000人以上を対象に、意識啓発活動を行いました。

また活動の一環として、学校を拠点

に少人数のグループで、仲間のクラスメイトの前に情報を共有し、アドバイスをしています。これらの活動に参加した生徒たちは、同世代に情報を伝える役割を担う「ピア・エデュケーター」として今後も学校や地域で活躍していく予定です。

参加者の声

ピア・エデュケーターの女の子

マリアさん (16 歳)

.....
私たち若者は、自分たちの意見を聞いてもらうだけでなく、自分たちの権利についても知る必要があります。そうすれば、性的な行為に対して責任ある態度をとり、恋人同士の間の暴力も防ぐことができるでしょう。

子どもと母親のための栄養改善

カンボジア

- 活動と成果**
- ① 子どもの栄養や衛生改善に関するトレーニングを受けた妊婦(1,074人)
 - ② 子どもの健康診断と栄養不良のケア(1,500人)

子どもたちの健やかな成長のために



子どもの体重測定をする母親

子どもの成長期に適切な栄養を取ること、健康に育つために大切ですが、シェムリアップ州では栄養に関する情報が普及しておらず、多くの保護者たちには、子どもの成長に必要なバランスのとれた栄養価の高い食事についての理解が不足しています。この結果、栄養不良の子どもたちが多くみられます。

地元の食材で栄養価の高い食事を

地元のパートナー団体と一緒に母親や妊婦に対するトレーニングを行いました。母親たちは、栄養価が高く、地元で比較的安価で手に入る食材や調理法について学ぶことができました。また、母親グループを結成し、彼女たちに対して栄養や衛生、母乳育児などに関するトレーニングを行いました。その結果、

育児で悩みを抱えた女性たちは、こうした母親グループに相談できるようになりました。さらに子どもたちの健康診断を実施し、栄養不良と診断された子どもたちには早い段階で必要な処置をとることができました。

参加者の声

乳幼児の保護者

チャブさん

.....
子どもたちは、定期的に体重測定など健康診断を受けています。親たちは、トレーニングを受けて、栄養価の高いおかゆなど離乳食の作り方を覚えしました。料理に使えるように栄養価の高い野菜も栽培しています。

ガールズ・プロジェクト

社会的、経済的にさまざまな制約を受け、より困難な状況に直面している女の子や女性たちが抱える問題の解決に取り組みます。

2018年度の実績
皆さまで募った寄付と、外務省より拠出された資金

2億2,107万4,665円

で前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、
7カ国で7プロジェクトを実施しました。



*会計の詳細については P28-29 をご覧ください

「女性性器切除から女の子を守る」プロジェクト

エチオピア

活動と成果 ①「女性に対する暴力撤廃の国際デー」を記念した意識啓発イベントやトレーニング(226人、うち女性105人)
②学校に在籍している貧困世帯の女の子への生理用ナプキン支給(430人、3,595パック)など

女の子の心身を傷つける慣習をなくす



学校の児童会・生徒会メンバー

エチオピアでは、通過儀礼・結婚の条件として、幼児期から15歳頃までの女の子の性器の一部を切除する有害な慣習である「女性性器切除」(Female genital mutilation/cutting、以下FGM/C)が広く行われています。法律上ではこの慣習は違法とされていますが、心身に及ぼす被害が一般の人々にはまだ十分に理解されておらず、施術が今も広く続けられています。

男の子や男性も参加して根絶を目指す

女の子だけではなく男の子や男性も含む地域住民全体への意識啓発活動を実施しています。活動の基盤となる児童会・生徒会、コミュニティリーダー、宗教リーダー、行政機関などを対象としたFGM/Cの被害に関するトレーニングの

実施、教材制作と配布、意識啓発イベントの開催などに重点を置きました。また、「女性に対する暴力撤廃の国際デー」(11月25日)を記念して3日間の意識啓発イベントを実施。「女性器切除の根絶のための国際デー」(2月6日)、「国際女性の日」(3月8日)には、心身に危険な伝統的慣習の被害について議論しました。

参加者の声

元FGM/C施術師
ティレンゴさん (60歳)
心身に危険な伝統的慣習の被害について学ぶトレーニングに参加し、FGM/Cはこの国では違法行為であることに私自身がようやく気がつきました。現在は、女性や女の子たちの相談を保健所につなぐ役割を担っています。

「少数民族の女性たちの収入アップ」プロジェクト

バングラデシュ

活動と成果 ①地域の起業家たちによる職業訓練(女の子・女性184人)
②生産性と収入を向上させるための農業技術トレーニング(女の子・女性947人)など

少数民族の女性の生計向上を目指す



縫製の指導を受けた後、受注した服を仕立てる女性

南部ボルグナ県では少数民族の伝統的な慣習として、女性が家計のおもな担い手である世帯が多く、彼女たちは農業など限られた生計手段のなか、わずかな収入で暮らしています。そのため、サイクロン、洪水、高潮などの自然災害に備えることも被害を乗り越えることもできず、さらなる貧困に陥るという負の連鎖が続いています。

厳しい家計に暮らす女性たちへのトレーニングが始動

住民集会や世帯訪問に基づき、少数民族、母子家庭、早すぎる結婚の経験者といった背景をもつ2,000人の女の子や女性が公平に選ばれました。その後、地域で成功している起業家が指導する職業訓練や、生産性を高める農業技術のトレーニングが始まりました。その結

参加者の声

職業訓練を受けた
ノンドさん (23歳)
竹細工作りで有名な方に指導してもらい、私も竹細工が作れるようになりました。今ではかなり上達して、一日に最低でも6〜8つのかごを作り、売っています。子どもたちの学用品購入や通学費も工面でできています。

「学校でのジェンダー平等促進」プロジェクト

ラオス

活動と成果 ①教師や保護者にジェンダートレーニングを実施(298人)、子どもクラブリーダーへトレーニング(90人、うち女の子45人)
②学生寮を建設(2棟)

女の子への差別や暴力がない学校づくり



絵を使って啓発活動の練習

北部ボケオ県パウドン郡は、住民の80%が少数民族で、国内でもっとも貧困率が高い地域のひとつです。男の子を優遇する風潮が根強く残っているこの地域では、教師のジェンダー平等に関する知識も不足しています。女の子の教育は軽視されがちで、女の子の進学率は低く、早すぎる結婚や妊娠による中途退学も見られます。

学校とコミュニティを巻き込んで活動

子どもたちが主体的に活動し、変化の担い手となるように対象校で子どもクラブを設立し、90人の子どもクラブのリーダーにジェンダー平等についてのトレーニングを行いました。学校でもコミュニティでもリーダーのほとんどは男性か男の子ですが、子どもクラブのリー

ダーの半分は女の子です。子どもクラブのリーダーは、自分たちの学校で啓発活動を行ったり、3月8日の「国際女性デー」にイベントを開催し、寸劇を通して女の子の教育の大切さを訴えました。

参加者の声

子どもクラブのリーダーをしている
高校生の女の子
活動を通じて、以前より男子生徒がやさしくなり、女子生徒はもっと勇気をもって自分たちの尊厳を守れるようになったと思います。今は女の子にも教育を受ける権利と、よいお給料の仕事を得る機会があることを知り、大学に行きラオス語の先生になりたいと思うようになりました。

2018年度の実績

皆さまから募った寄付と、外務省、世界食糧計画、米州開発銀行などから拠出された資金

8億374万9,428円

で前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、
18カ国で22プロジェクトを実施しました。



*会計の詳細については P28-29 をご覧ください

「南スーダン難民の子ども保護」プロジェクト

ウガンダ

- 活動と成果**
- ① 「子どもひろば」に遊具を支給(2カ所)、女の子と女性に生理用品キットを配布(820人)
 - ② 特別な支援が必要な子どもに生活用品の配布(255人) など

難民居住区で 子どもたちの 心と体を守る



「子どもひろば」で安心して、楽しく遊ぶ子どもたち

南スーダンからウガンダに逃れた難民数は105万人を超え、60%を占める子どもの多くは、出身国あるいはウガンダ到着後に身体的、性的暴力、家族との離散や死別など、非常に深刻で心理的負担の大きい経験をしています。そのため、2017年10月よりケースワーカーによる個別支援や心理社会的サポート、地域の子どもの保護体制づくりなどの支援に取り組んでいます。

一人ひとりの状況に応じた支援

難民居住区に設置された「子どもひろば」で働くボランティアは、心の傷を抱えている難民の子どもたちが安心して遊べるように工夫し、子どもたちの心を元気にするお姉さんやお兄さんです。ボランティアには研修を通じて、「子どもひろば」の適切な運営、子どもへの接し方、

特別な支援が必要な子どもの報告体制の知識を身につけてもらいました。月平均600人の子どもたちが「子どもひろば」で楽しく遊ぶことができるようになったほか、暴力や虐待、ネグレクトなどの被害を受けた子どもたちを特定し、個別に支援をするケースワーカーに照会する体制を整えました。

参加者の声

「子どもひろば」のボランティアリーダー
ジェシカさん (25 歳)
.....
福祉活動や地域住民と関わるのが好きなのでボランティアに応募しました。ボランティアとして活動する前は、とくに何もせずに過ごしていて、強い劣等感を持っていました。今は、少し自信ができました。

「ロヒンギャ族の子ども虐待防止」プロジェクト

ミャンマー

- 活動と成果**
- ① 恒久的に使える「子どもひろば」の建設(5村に1カ所ずつ)、「子どもひろば」を利用した子ども(5,855人)
 - ② 子どもの保護と子どもの権利に関する啓発活動(27村で計28回、保護者524人)

少数民族の 子どもたちの ケアを目指して



「子どもひろば」で友だちと楽しく遊ぶ子どもたち

ミャンマーでもっとも開発が遅れている貧しい地域、ラカイン州に暮らすイスラム系少数民族のロヒンギャ族は、国籍がないために、これまで数十年にわたり移動の自由、教育や保健サービスへのアクセス、経済活動への参加が制限されてきました。ラカイン州に暮らす少数民族の子どもたちの心理的ケア、行政や専門家とともに子どもをあらゆる暴力や搾取から守るための体制づくりを行っています。

「子どもひろば」の運営が 順調にすすみました

プロジェクト開始直後の8月にラカイン州で発生した暴動と軍の掃討作戦による混乱により、活動の一時中断を余儀なくされました。その後、状況が改善したことから、2018年1月に活動を再開し、プロジェクト期間が半年間延長され

ました。現在までに、「子どもひろば」5カ所の建設が完了しました。また、遊具を対象27村に支給するとともに、500人以上の保護者を対象に子どもの保護と子どもの権利に関する啓発活動を実施し、参加者たちは実際に子どもの虐待を見つけた際の連絡先や相談窓口などを共有するなど、対応方法を学びました。

参加者の声

「子どもひろば」を利用している
ピウピウさん (12 歳)
.....
子どもひろばでゲームをしたり本を読んだりします。先日、「子どもひろば」で学んだ子どもの保護や子どもの権利のことを家族に伝えたら、親から叩かれることが以前に比べて少なくなりました。

「シリア難民の子ども教育支援」プロジェクト

エジプト、ヨルダン

- 活動と成果**
- ① 小中学校8校で、衛生キット(歯ブラシ、歯磨き粉、せっけん、くし、タオル、女子生徒には生理用品)などを支給(800人)
 - ② 就学前教育センターの開設と運営(子ども300人) など

子どもたちの 未来を開く 教育を支援



就学前教育センターの子どもたち

2011年から始まったシリア紛争が原因で人道支援が必要とされている人々のおよそ半数が子どもと言われており、多くの子どもたちが住んでいた場所を追われ、困難な逃亡を経て見知らぬ土地で難民として暮らしています。子どもたちは大事な成長期に必要な教育やケアを受ける機会を失っています。

難民キャンプでは保護者が活躍

エジプトでは子どもたちからなる水衛生委員会を8校で立ち上げました。合計で400人の子どもが委員会のメンバーとして活動、毎月、歯磨きや手洗い、応急手当などに関するトレーニングを受けました。その後、学校の友だちに正しい衛生知識を伝えることができるようになりました。ヨルダンでは、アズラック難民キャンプ内に就学前教育センター

を開設。週6日オープンし、子どもたち300人が利用しています。またその子どもたちの保護者を対象に、子どもの権利と健康に関する啓発活動を実施。センターの運営は選出された保護者10人が主体的に行っています。

参加者の声

ヨルダンに逃れてきたシリア難民の
5 歳の子ども母親
.....
シリアからここに来た4カ月前は、娘は友だちを叩いたり、ものを投げたり、ずっと座って泣いたりして、心が不安定でした。この就学前教育センターに来るようになってから、少しずつですが友だちもでき、一緒に遊ぶようになりました。最近は家でも笑顔が増えてきました。



2018年度の実績
皆さまから募った寄付と、アジア開発銀行から拠出された資金、
ジャパン・プラットフォームより拠出された資金

1億3,254万2,000円

で前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、
10カ国で11プロジェクトを実施しました。

*会計の詳細については P28-29 をご覧ください

「九州北部豪雨」緊急支援

日本

活動と成果 ① 歯磨き、歯ブラシ、生理用品、マスク、タオル、おしぼり、虫除けスプレー、蚊取り線香などの衛生用品 300個
② 肌着、衣類、軍手、スリッパ、サンダルなどの生活用品 1,280個

九州を襲った 豪雨被害に対応



多くの保育士の方のご協力を得て

2017年7月5～6日にかけて福岡県と大分県を中心とする九州北部豪雨が発生。福岡県と大分県で40人の人的被害が生じ、多数の住宅損壊や孤立地域が発生しました。プランは被災された方々が一日も早く以前の生活に戻れるよう、他団体や地元の方々と連携・協力しながら支援活動を実施しました。

緊急物資の提供と 「子どもひろば」の運営

職員5人体制で約2カ月間実施しました。衛生・生活用品（歯磨き、歯ブラシ、全身洗剤、生理用品、肌着、スリッパ、マットレスなど）を中心に支援物資を朝倉市と日田市の計5カ所の避難所に支給するとともに、朝倉市の3カ所の避難所において「子どもひろば」を設置・運営。また、災害時の子どもの心のケアに関する保

護者相談会や自主的な避難所運営を実現するための支援を行いました。活動は、2016年の熊本地震支援活動でも協働した地元の臨床心理士を中心とした支援グループや地元で活動しているNPOと連携して実施しました。

参加者の声

「子どもひろば」を利用した
子どもの保護者
.....
家の片づけが大変ですが、がれきを片付ける大型車両が行き交い粉じんが舞う中、子どもたちをこれまでのように外で遊ばせるのは不安でした。避難所に『子どもひろば』があって、安心して子どもを預けることができました。

「南アジア洪水」緊急支援

ネパール・インド・バングラデシュ

活動と成果 ① ネパール：食料、飲料水、仮設テント、衛生用品の支給など（2万5,613人）、バングラデシュ：飲料水・浄化剤支給、生活再建支援など（約8万人）、インド：学用品の支給、簡易保健所の設置など（約5,000世帯）

豪雨災害の 感染症拡大を 防ぐ



緊急物資を受け取る人々(ネパール)

2017年8月上旬から降り続いた豪雨により、ネパール、インド、バングラデシュでは洪水や土砂崩れが発生しました。死者や行方不明者、負傷者が多数発生し、大勢の人々が家や家畜などの生活手段を失い避難生活を強いられるなど、甚大な被害をもたらしました。また、衛生環境の悪化により、感染症拡大のリスクも高まりました。

子どもと女性の安全に配慮

ネパールでは約169万人、バングラデシュでは約800万人、インドでは約1,700万人と多くの人々が被災しました。災害発生時、もっとも弱い立場に置かれるのは子どもと女性です。食料や水、仮設テントや衛生用品などの支給に加えて、安心を取り戻すための支援が欠かせません。また、災害時の混乱に乗り

た人身売買や性的虐待などさまざまなリスクから子どもと女性たちを守るよう、中長期的視野に立った復興を目指しました。被災地の子どもたちの権利が守られ、安全で安心できる日常生活を一日も早く取り戻せるよう、とくに女の子や女性たちに配慮した、支援を実施しました。

参加者の声

バングラデシュ、クリグラム県で
被災した女の子（14歳）
.....
私の家も水に浸かってしまったため、家族と一緒に高台に逃げ、避難生活を始めました。飲み水が全然なく困っていましたが、プランが飲料水を支援してくれたおかげで、私たち家族の命は助かりました。

「ロヒンギャ難民」緊急支援

バングラデシュ

活動と成果 ① セッケンや歯ブラシなどの衛生用品キットの支給（1万世帯）、生理用品キットの支給（1万人）
② 衛生環境改善のための啓発活動（686回、2万9,771人）、非公式教育施設の設置（40カ所）など

長期化する 人道危機の 解決のため



トラックで運びこまれる支援物資の衛生用品キット

2017年8月にミャンマーのラカイン州で発生した暴動とその混乱が原因で、約70万人のロヒンギャ族の人々が難民となり、隣国バングラデシュへ逃れました。その多くが子どもと女性です。アジア最大規模の人道危機として拡大し、いまだ帰還もすすまず、90万人以上の人々がコックスバザールにある難民キャンプで暮らしています。

「子どもひろば」の運営が 順調にすすみました

コックスバザール県で、着の身着のままに避難してきた70万人以上の人々の喫緊のニーズに応えるため、衛生用品の支給や衛生施設の支援を行いました。混乱のなかで危険が高まる子どもへの暴力や人身取引から保護するための啓発活動も実施。また、女の子や女

性たちのニーズを配慮して支給物資を行いました。長期化する避難生活のなかで、丘陵地帯の仮設住居はぜい弱で、自然災害の危険があります。非公式教育施設の設置とともに、防災教育を行い、災害への備えを強化しています。

参加者の声

非公式教育の教師
ラテカさん（18歳）
.....
この地域の教室は崖に近いので、土砂崩れが起きる危険性があります。私は教師のためのトレーニングに参加し、土砂崩れの際に子どもたちをどこに誘導すべきか、火事のときにはどう行動するかなどを学びました。研修で教わったことは、生徒や保護者にも伝えて、子どもたちの安全を守りたいです。

一口100万円プロジェクト

個人やグループ、企業などが共同で
ひとつのプロジェクトをご支援いただく方法です。



*会計の詳細については P28-29 をご覧ください

オーダーメイド・プロジェクト

ひとつのプロジェクトを個人や企業で
「まるごと支援」いただく支援方法です。



「女の子の自立支援」プロジェクト

ネパール

活動と成果 ① 職業訓練や、起業支援、問題解決能力やコミュニケーション能力などを学ぶライフスキル教育(女の子約100人)

女の子が 手に職を つけられるように



調理人になるための訓練を受ける女の子たち

2015年4月のネパール大地震や長年の政情不安の影響により、多くの人々が職を求めて首都カトマンズに移住してきたものの、厳しい生活を強いられています。とりわけ、農村部から移住し、スラムなどに生活している女の子たちは、人身売買や性産業などの危険も加わり、将来の見通しがたない取り残された存在となっていました。

スキルを身につけて経済的に自立

女の子のなかから、とくに生活に困窮し、スラムなど劣悪な環境下に暮らしていたり、人身売買や暴力、災害などから逃れたりした、とりわけ困難な状況下にある女の子たちを対象者に選びました。選考にあたってはこうした条件に加え、個別面談を行って、サービス業への就業や起業に対する意欲を確認して、最終的に

対象者を決めました。さらに就職に有利な職種に関する労働市場調査を実施し、雇用主へのトレーニングや就職までの協力を要請した結果、調理人、バリスタ/パン職人、接客担当の3職種での職業訓練が最終的に決まりました。約100人の女の子を対象に活動をすすめました。

参加者の声

プロジェクトで訓練を受けた

ニサさん (20歳)

父が亡くなり母が家計を支えています。私が訓練を受けていることについて、母は喜んでいます。中華料理のシェフになりたいです。将来、大きな夢ではありませんが数年間ぐらいどこかで働いて、よい経験を積み自分のレストランを開きたいです。

「参加型教育支援」プロジェクト

ホンジュラス

活動と成果 ① 障がいのある子どもにも配慮した教室建設(2教室)、男女別トイレの建設と、給水設備など
② 子どもを対象にした参加型学習の促進、ライフスキル教育など

子どもが 安心して学べる 環境を



グループ学習のトレーニング

コパン県の活動地域のコミュニティでは、小学校施設の老朽化が問題でした。また、教師たちは伝統的な講義型教育法に従って指導し、子どもたちは受動的になりがちでした。このため、子どもたちが安全な環境で積極的に参加しながら学べるよう、学校施設の整備や教師の指導法の改善などが急務でした。

子どもたちのやる気を引き出す

障がいのある児童も利用しやすい2教室と男女別トイレと給水設備を建設しました。校内には図書コーナーを設置することで、子どもたちはさまざまな知識を得ることができるようになりました。また、子どもを対象に子どもの権利やジェンダー平等、参加型学習やグループ学習に関するトレーニングを実施したところ、子どもたちは活動のさまざまな場

面で積極的に参加するようになりました。さらに、教師と市自治体職員が参加型教授法、グループ学習、国語(スペイン語)と算数の指導技術、教育の質の管理などについて学びました。

参加者の声

対象校に通う女の子

ジュディスさん

本の世界の一部になれるので、私は本を読むのが好きです。図書コーナーができてうれしいです。

保護者

アレハンドラさん

私たちはみんなで、この学校を大事にしていかなければならないと、心に誓いました。

アドボカシー・開発教育・公的機関との連携

アドボカシー（政策提言）では女の子の問題解決とジェンダー平等を掲げて、プラン・インターナショナルの目標や持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献を目指し活動しました。開発教育ではパートナー団体や教育機関との連携がさらにすすみました。助成金では緊急支援や難民支援も強化しました。

アドボカシー

Girl's Leadership（ガールズ・リーダーシップ） ～女の子が変える未来～ 2017 年 10 月

10 月 11 日の「国際ガールズ・デー」に合わせて、玉川聖学院の中高生とプランのユース・メンバーが都庁と企業のリーダーたちを訪問しました。女の子たちの声が受け入れられ、政策に反映されるよう、さらに女の子もリーダーシップを発揮できる未来を実現するために提言をしました。



小池百合子東京都知事に提言を述べる若者たち
撮影：金井塚太郎 / プラン・インターナショナル

東京都知事、都議会議員/副議長へ 提言書を提出

都知事と都議会議員/副議長にそれぞれ面会した若者たちは、働く場でもっと女性の力を生かすために、「若者の意見を取り入れてください」「女性の政治参加を増やしてください」など若者ならではの視点を交えて意見を述べました。



都議会議員 / 副議長に提言書を提出
撮影：金井塚太郎 / プラン・インターナショナル

ヒルトン・グランド・バケーションズの男性リーダーたちに面会

職場におけるジェンダー平等がすすんでいる企業、ヒルトン・グランド・バケーションズでアジア支社を含む5カ所の営業所長に面会し、女性にとっても男性にとっても働きやすい平等な職場への取り組みを訴えました。

アジア支社の皆さんと



G7サミットに向けた日本政府 への働きかけ 2018 年 6 月

2018 年 6 月 8 ～ 9 日に、カナダのシャルルボワで行われた G7 サミットにおいて、「危機状況下の女の子の教育」が議論されました。日本では他団体と協働し、日本政府に対し、資金拠出も含めて「危機状況下にある女の子のための教育支援」に賛同するよう提言しました。

この提言を受けて、日本政府は今後 3 年間で 2 億ドルを、緊急下や紛争影響国を含む女の子と女性の質の高い教育に投資することを表明しました。

教育のためのグローバル・パートナーシップの 理事会議長に面会 2017 年 12 月

プランは途上国で教育支援を行う 21 団体からなる「教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）」の副代表や、「世界一大きな授業」の事務局をつとめるなど、他団体と協働しながら、日本政府が教育支援を拡充するよう働きかけています。今年も日本政府にむけた ODA の教育支援の拡充や Global Partnership for



日本の取り組みをジュリア・ギラード議長（元オーストラリア首相）に説明する佐藤事務局長と城谷職員
（写真提供：JNNE）

Education（以下 GPE）への拠出の増額の要請をする
とともに、来日した GPE 理事会議長に日本の取り組みを説明しました。

開発教育

開発教育実践セミナーに登壇 2018 年 1 月

開発教育の担当職員が独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）主催の開発教育実践セミナーに、連携校の玉川聖学院（東京）教師と登壇。講師派遣、読書感想文コンクール、ボランティア体験などを通じた学校と NGO

プワークでは、プランの取り組みを JICA や NGO 関係者、教師、教育行政官などと共有。参加者は、パートナーとしての NGO の選び方、国際理解教育のすすめ方、開発教育のグローバル人材育成に果たす役割などについて理解を深めました。



学校との協働事例を発表する内山職員

読書感想文コンクール表彰式 2017 年 11 月

4 年目を迎えた「プラン・インターナショナル夏休み読書感想文コンクール 2017」には、25 の都道府県および海外の 68 校の中高生から 1,099 作品の応募があり、同世代を生きる途上国の女の子への思いを感想文に綴ってくれました。



表彰式後に角田光代審査員長と記念撮影

開発教育授業の実施（通年）

さまざまなパートナーとの連携により、中学、高校、大学 50 校および団体の計 3,576 人を対象に授業を行い、参加者の途上国やプランの取り組みへの理解を深めることができました。

公的機関との連携

多くの機関と連携を強化（通年）

国内外の機関と連携しながら、14 カ国で 23 プロジェクトを実施しました。外務省の日本 NGO 連携無償資金協力案件では、グアテマラにおけるジェンダー平等促進事業を新たに開始。さらにジャパン・プラットフォームからの助成事業として、スリランカ、南スー

ダン、ウガンダで事業を実施しました。その他、国際機関とも連携し、カメルーンやスーダンでの難民および国内避難民への支援を展開しました。ベトナム、ラオス、グアテマラ、ウガンダでは日本人職員が駐在し、プロジェクト管理運営にあたっています。



ライチャウ省の子どもたちと 奥村職員（ベトナム）



ジェンダー平等を促進する子どもたちと 長島職員（ラオス）

洪水被害を受けた子どもたちに、学用品を渡す船越職員と橋職員（スリランカ）

活動を支える企業のCSR

2018 年度、プラン・インターナショナルは 908 の企業・団体からご支援をいただきました。「社会貢献活動を通じて持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献したい」「寄付付き商品売り上げを寄付することで、消費者とともに途上国支援をしていきたい」「イベント開催を通じて、従業員や関係者の途上国理解を深めていきたい」「社員のボランティア活動を奨励していきたい」など、さまざまな思いからご支援に参加いただいています。そのような事例の一部をご紹介します。



郡政府から感謝状が授与（カンボジア）

株式会社 1&D ホールディングス 利益の1%をアジアの教育支援のために

焼肉・しゃぶしゃぶレストランのワン・ダイニングと食肉小売のダイリキの2つの事業会社を持つ1&D ホールディングス。利益の1%を10年間にわたりご寄付くださっています。途上国の子どもたちがよりよい教育環境で勉強ができるようにと、2008 年から学校建設をご支援くださり、今年度カンボジアに10校目の学校が完成しました。落成式には高橋淳代表取締役社長とアルバイト代表の皆さんが参列。日本に関するクイズを出したり、未来の自分に宛てた手紙を書いて校庭に埋めたり、生徒たちと一緒に思い出に残る交流をされました。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社 社会貢献ファンドの 信託報酬の一部から支援

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社は、SRI（社会的責任投資）として運用している「朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド（愛称：あすのはね）」で、その信託報酬の一部から社会的課題に取り組む団体を支援されています。プランは、ファンドが設定された2000年以降、毎年寄付先に選定いただいています。寄付プロジェクトはグローバル・プロジェクトのなかから決定。今年度は、ベトナムにおける「幼稚園・小学校教育」プロジェクトを通じて、山岳民族の子どもたちの教育環境改善をご支援くださいました。



新設された小学校の図書室（ベトナム）



チャリティランチ開催の様子

IHG・ANA ホテルズ労働組合連合会 全国の加盟ホテルで 「ボランティアズデイ」を開催

インターコンチネンタル ホテルズ グループと、全日本空輸株式会社が提携し、日本各地でホテルを運営するIHG・ANA ホテルズグループジャパン。IHG・ANA ホテルズ労働組合連合会では、毎年全国の加盟ホテルで、「ボランティアズデイ」を開催しています。23回目を迎えた2018年度も、チャリティランチ、バザーや献血など、ホテルごとに工夫を凝らし、集まったお金をご寄付くださいました。「ボランティアズデイ」の活動とは別に、同連合会としてプラン・スポンサーシップを通じたご支援もいただきました。

東京マラソン2018チャリティ

走ること途上国の 子どもを支援

プラン・インターナショナルは東京マラソン2018チャリティ事業の寄付先団体です。2018年2月25日（日）の大会では3万5,000人のランナーのうち4,000人のチャリティランナーがプランを含む16の団体を支援されました。プランのチャリティランナーとして参加されたのは129人。途中3カ所でプランの応援団の声援を受けながら寒空の下42.195キロを走り抜けました。東京マラソン2018チャリティを通じたご支援は、バングラデシュにおける「スラムに生きる子どもやお母さんの命を守る」プロジェクトに活用させていただきました。



プランの応援に応じるチャリティランナー
撮影：金井塚太郎 / プラン・インターナショナル

株式会社サザビーリーグ ジュエリーに願い込めて

アパレルから生活雑貨までさまざまなブランドを手がけるサザビーリーグのジュエリーブランドARTIDA OUD（アルティダ ウード）。困難に直面する途上国の女の子たちの幸せを願い、2018年4月のブランドローンチ当初より、「ポイント募金プログラム」やチャリティコレクションの売り上げを通じて、ガールズ・プロジェクトを支援してくださいました。



同社ウェブサイトでの案内

株式会社デファクトスタンダード（ブランディア） ブランド品を売って寄付する チャリティープログラムによる支援

ブランド品の買取金額の一部を世界の子どもたちや環境保護に寄付する「ブランディアチャリティープログラム」を通じてご支援をいただいています。このプログラムは、中古品を通じて循環型社会

の構築を目指すなかで、「モノ」だけでなく人と人をつなぐ思いやりの心も循環できたらとの考えから始まりました。ご寄付では、ネパールにおける「ITトレーニング支援」プロジェクトをご支援

くださいました。



プロジェクトを通じ、農村部に暮らす若い女性たちはIT知識やスキルを身につけることができました。

パソコン技術を学ぶ女性たち（ネパール）

今年度ご寄付を いただいた企業

アスピア化粧品株式会社
イオン株式会社
MFSインベストメント・マネジメント株式会社
株式会社いすゞ質店
株式会社イトーヨーカ堂
株式会社大林組
株式会社学研ホールディングス
株式会社三和インターナショナル
株式会社宝建材
株式会社日能研

協栄ハウス株式会社
シチズン時計株式会社
住友化学株式会社
第一三共株式会社
武田薬品工業株式会社
トヨタ紡織課長会
日本共済株式会社
日本パイリーン株式会社
日本労働組合総連合会
ヒロセ通商株式会社

フェニックス・キャピタル株式会社
藤田観光株式会社
丸中製菓株式会社
三井物産株式会社
森永製菓株式会社
Yahoo!ネット募金（ヤフー株式会社）
有限会社ユークリッド・エージェンシー
有楽製菓株式会社
ワールドインテリジェンスパートナーズジャパン株式会社

※50音順・敬称略 ほかに多くの企業にご支援いただきました

MESSAGE

Uganda

ナンシーさん(12歳)

学校の健康クラブの一員として活動して、みんなに手洗いの大切さを広めました。地域には新しい井戸ができて、学校には新しい教室が完成しました。おかげで私はよい環境で勉強できるようになりました。



ロナルドさん(12歳)

ぼくはスポーツクラブでよくサッカーをしています。プランが学校に建てた新しいトイレのおかげで、下痢をしなくなりました。たくさんのご支援をどうもありがとう。



Guatemala

グリセルダさん(12歳)

5、6月頃になり、カルダモン収穫がなくなると、私は現金収入を得るため、村から約3時間のところにある町に家政婦の手伝いとして働きに行かされていました。プランのジェンダー平等のトレーニングに参加した両親が、私の将来のために学校に戻したいと言ってくれ、また学校に戻ることが出来ました。応援してくれて、ありがとう。



Indonesia

マルフィンさん(5歳)

幼稚園に通っています。将来の夢は、警察官になることです。僕の家と日本のスポンサーの家は遠いけど、近くに感じます。



Vietnam

左から

ズン、コウ、ニーさん(10歳)

プランが支給してくれた本や書棚で学校に新しい図書室ができました。自由時間には友だちとよくここに来て読書を楽しんでいます。これまで教科書以外の本を読むチャンスはほとんどありませんでした。今では週末に本を借りて、うちで読むこともできます。

Nepal



アンジャナさん(17歳)

私はサッカー・プロジェクトに参加しました。ネパールのナショナルチームで活躍したいです。プランに感謝しています。これからも応援よろしくお願いします。

Bangladesh

モメンさん(16歳)

プランのおかげで、学校でも家でも安全な水が飲めるようになりました。地域の人たちも衛生についての考え方が変わりました。プランのさまざまなプロジェクトに感謝しています。



ミーキットさん(14歳)

子ども議会のメンバーとして、女の子の心身を傷つける慣習が少しでもなくせるように、仲間と一緒に活動しています。まだまだたくさん問題があります。少しでも解決できるようにこれからも応援してください。

ナタニムさん(8歳)

プランの学校給食プロジェクトのおかげで、ランチが食べられるようになりました。以前は家からランチをもってこられなかったの、午後はお腹が空いて、授業に集中できませんでした。今は給食を食べて、勉強にも集中できるようになりました。



Ethiopia

ティヤさん(10歳)

プランが清潔な学校食堂と手洗い場、女の子が生理のときに使える清潔な施設も建ててくれました。よい環境で勉強できるようになって、とてもうれしいです。



アロさん(17歳)

私はライフスキル教育や衛生に関するトレーニングに参加しました。嫌がらせから自分を守る護身術として、空手のトレーニングも受けました。皆さんのご支援でいろんなトレーニングに参加できて、自分に自信ができました。心から感謝します。



活動国の基本統計一覧 2018

		活動開始年	チャイルド数	日本のスポンサーを持つチャイルド数	平均余命(歳)	成人の総識字率(%)	初等学校に入学した生徒が最終学年まで残る割合(女の子)	5歳未満児死亡率(出生1,000人あたり)	妊産婦死亡率(出生10万人あたり)	基礎的飲料水サービスを利用する人の割合(%)	18歳より前に結婚または事実婚状態にあった20〜24歳の女性の割合(%)	出生登録されている5歳未満の子どもの割合(%)	1日1.90米ドル未満で暮らす人の比率(%)
アジア	バングラデシュ	1994	32,180	1,587	72	73	－	34	176	97	59	20	19
	カンボジア	2002	28,499	1,259	69	74	55	31	161	75	19	73	2
	中国	1995	29,563	378	76	95	－	10	27	96	－	－	2
	インド	1979	55,050	1,551	69	69	81	43	174	88	47	72	21
	インドネシア	1969	39,563	935	69	95	－	26	126	90	14	73	8
	ラオス	2006	3,773	0	67	58	80	64	197	80	35	75	17
	ミャンマー	2012	10,092	669	67	76	－	51	178	68	16	81	－
	ネパール	1978	39,726	1,938	70	60	78	35	258	88	37	58	15
	パキスタン	1997	26,082	1,015	66	57	64	79	178	89	21	34	6
	フィリピン	1961	36,477	1,495	69	96	－	27	114	91	15	90	13
	スリランカ	1981	20,227	1,004	75	91	99	9	30	92	12	97	2
	タイ	1981	13,072	462	75	93	－	12	20	98	23	100	0
	東ティモール	2001	15,573	110	69	58	84	50	215	70	19	55	47
	ベトナム	1993(再開)	33,120	2,474	76	94	98	22	54	91	11	96	3
中南米	ボリビア	1969	40,443	884	69	92	97	37	206	93	22	76	7
	ブラジル	1997	17,496	236	76	92	－	15	44	97	36	96	4
	コロンビア	1962	19,922	624	74	94	91	15	64	97	23	99	6
	ドミニカ共和国	1987	23,972	545	74	92	81	31	92	94	36	88	2
	エクアドル	1962	42,454	943	76	94	83	21	64	93	22	94	4
	エルサルバドル	1976	35,042	722	74	88	80	15	54	93	26	99	3
	グアテマラ	1978	35,000	893	73	81	74	29	88	94	30	96	9
	ハイチ	1973	29,685	65	63	49	－	67	359	64	18	80	54
	ホンジュラス	1977	34,624	908	74	89	82	19	129	92	34	94	16
	ニカラグア	1994	25,000	609	75	78	－	20	150	82	41	85	6
	パラグアイ	1994	24,035	607	73	95	86	20	132	99	18	85	3
	ペルー	1994	25,056	737	75	94	92	15	68	90	22	98	3
東南アフリカ	エジプト	1981	31,926	1,207	71	75	－	23	33	98	17	99	－
	エチオピア	1995	32,841	685	65	39	39	58	353	39	40	3	34
	ケニア	1982	57,295	1,792	67	79	－	49	510	58	23	67	34
	マラウィ	1994	22,511	302	63	62	55	55	634	67	42	67	71
	モザンビーク	2007	13,824	106	58	51	32	71	489	47	48	48	69
	ルワンダ	2007	19,412	234	67	68	48	39	290	57	7	56	60
	南スーダン	2006 (独立前から 該当地域にて)	0	0	57	27	－	91	789	50	52	35	43
	スーダン	1977	29,788	409	64	54	79	65	311	59	34	67	15
	タンザニア	1991	29,166	654	66	78	71	57	398	50	31	26	47
	ウガンダ	1992	34,600	984	60	70	22	53	343	39	40	30	35
	ザンビア	1996	21,679	350	62	83	54	63	224	61	31	11	64
	ジンバブエ	1986	37,483	1,140	61	89	78	56	443	67	32	44	21
西アフリカ	ベナン	1994	24,395	258	61	33	56	98	405	67	26	85	53
	ブルキナファソ	1976	41,334	1,325	60	35	71	85	371	54	52	77	44
	カメルーン	1996	25,928	515	58	71	67	80	596	65	31	66	24
	ガーナ	1992	28,500	591	63	71	82	59	319	78	21	71	25
	ギニア	1989	31,764	625	60	32	65	89	679	67	52	58	35
	ギニアビサウ	1995	19,976	201	57	46	－	88	549	69	24	24	67
	リベリア	2006(再開)	12,250	0	63	43	－	67	725	70	36	25	69
	マリ	1974	27,740	408	58	33	59	111	587	74	52	87	49
	ニジェール	1998	21,620	322	60	15	66	91	553	46	76	64	46
	ナイジェリア	2014	0	0	53	51	－	104	814	67	43	30	54
	セネガル	1982	34,719	1,340	67	43	60	47	315	75	31	68	38
	シエラレオネ	1976	13,000	198	52	32	48	114	1,360	58	39	77	52
	トーゴ	1988	24,484	773	60	64	53	76	368	63	22	78	54
	日本	1983	－	－	84	－	100	3	5	99	－	100	－

※プランに関するデータは2018年6月30日現在のものです。それ以外のデータは、「ユニセフ 世界子供白書 2017」からの出典となります

2018年度
公益財団法人プラン・
インターナショナル・ジャパン
決算報告 2017年7月1日～2018年6月30日

この決算報告は、PwCあらた有限責任監査法人および本財団監事による監査を受け、理事会並びに評議員会の承認を経て内閣府へ提出した財務諸表等の抜粋です。財務諸表等はウェブサイト <https://www.plan-international.jp> でご覧いただけます。

貸借対照表	2018年6月30日現在 (単位：円)
科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	833,793,241
2. 固定資産	
(1) 基本財産	200,000,000
(2) 特定資産	1,170,570,827
(3) その他固定資産	235,105,988
固定資産合計	1,605,676,815
資産合計	2,439,470,056
II 負債の部	
1. 流動負債	89,219,754
2. 固定負債	0
負債合計	89,219,754
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	1,370,570,827
2. 一般正味財産	979,679,475
正味財産合計	2,350,250,302
負債及び正味財産合計	2,439,470,056

監査報告書



正味財産増減計算書 2017年7月1日から2018年6月30日まで (単位：円)

科目	金額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①基本財産運用益	1,785,318
②受取寄付金	2,657,674,372
③特定資産運用益	22,839
④受取補助金等	438,901,627
⑤雑収益	1,744,729
経常収益計	3,100,128,885
(2) 経常費用	
①事業費	3,036,659,234
地域開発・緊急復興支援事業費	2,387,360,932
国際相互理解促進・啓発事業費	175,067,673
支援募集活動費	390,943,632
寄付金取扱事務費	83,286,997
②管理費	117,579,755
経常費用計	3,154,238,989
投資有価証券評価損益	△ 150,000
当期経常増減額	△ 54,260,104
2. 経常外増減の部	
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 54,260,104
一般正味財産期首残高	1,033,939,579
一般正味財産期末残高	979,679,475
II 指定正味財産増減の部	
①受取寄付金	836,710,276
②特定資産運用益	2,704
③受取補助金等	552,070,332
④一般正味財産への振替	△ 808,028,396
当期指定正味財産増減額	580,754,916
指定正味財産期首残高	789,815,911
指定正味財産期末残高	1,370,570,827
III 正味財産期末残高	2,350,250,302

受取寄付金内訳

（この表は監査を受けていません）（単位：千円）	
寄付金の種別	経常収益
スポンサーシップ寄付金	1,730,641
マンスリー・サポーター寄付金※	501,470
プロジェクト特定寄付金振替額	368,244
プロジェクト無特定寄付金	56,437
プロジェクト無特定寄付金振替額	882
合計	2,657,674

※マンスリー・サポーター寄付金は、グローバル・プロジェクトとガールズ・プロジェクトの継続寄付金です。

受取補助金等内訳

補助金等の名称	交付者	経常収益
日本NGO連携無償資金協力	外務省	97,204
草の根・人間の安全保障無償資金協力	外務省	17,731
NGO事業補助金	外務省	620
緊急支援	ジャパン・プラットフォーム・フォーム	61,992
食糧安定供給	世界食糧計画	140,365
日本特別基金	米州開発銀行	34,768
緊急復興支援	アジア開発銀行	18,845
アルバート・アインシュタイン難民学術イニシアチブ	国連難民高等弁務官事務所	37,717
緊急対応基金	国際移住機関	18,560
事業補助金	国連児童基金	11,101
合計		438,902

経常費用内訳

		活動国 プログラム費	広告・広報費	人件費	事務費	施設費	諸雑費	計
事業費	地域開発・緊急復興支援事業費	2,258,682	239	59,991	35,817	28,624	4,008	2,387,361
	国際相互理解促進・啓発事業費	-	5,772	75,351	49,836	43,757	351	175,068
	支援募集活動費	-	235,631	69,302	43,358	42,501	152	390,944
	寄付金取扱事務費	-	-	22,071	42,796	18,374	46	83,287
管理費		-	17	70,891	14,103	29,796	2,773	117,580
合計		2,258,682	241,659	297,606	185,909	163,052	7,330	3,154,239

事業一覧

		プラン・スポンサーシップ オーダーメイド・プロジェクト ー口 100 万円プロジェクト	ガールズ・ プロジェクト	グローバル・ プロジェクト	緊急・復興支援	合計		
地域開発・緊急復興支援事業費	アジア	バングラデシュ地域開発プロジェクト	56,260	-	-	-	56,260	
		少数民族の女性たちの収入アップ	-	83,005	-	-	83,005	
		災害に強い学校づくり	-	-	5,469	-	5,469	
		南アジア洪水緊急支援	-	-	-	1,500	1,500	
		ロヒンギャ難民緊急支援	-	-	-	5,000	5,000	
	カンボジア	カンボジア地域開発プロジェクト	28,787	-	-	-	28,787	
		学校給食による初等教育改善	-	-	143,190	-	143,190	
	中国	中国地域開発プロジェクト	19,926	-	-	-	19,926	
	インド	インド地域開発プロジェクト	-	-	-	-	-	
		乳幼児の総合的栄養改善	44,474	-	45,314	-	89,788	
		児童労働のない地域づくり	-	-	93,255	-	93,255	
		南アジア洪水緊急支援	-	-	-	1,500	1,500	
	インドネシア	インドネシア地域開発プロジェクト	22,186	-	-	-	22,186	
	ラオス	ラオス地域開発プロジェクト	-	-	-	-	-	
		ジェンダー平等促進による中等教育環境改善	-	7,067	-	-	7,067	
	ミャンマー	ミャンマー地域開発プロジェクト	17,208	-	-	-	17,208	
		ロヒンギャの子どもの虐待防止	-	-	81,731	-	81,731	
	ネパール	ネパール地域開発プロジェクト	112,395	-	620	-	113,015	
		女性への暴力撲滅・保護	-	9,724	-	-	9,724	
		南アジア洪水緊急支援	-	-	-	4,236	4,236	
	パキスタン	パキスタン地域開発プロジェクト	27,996	-	-	-	27,996	
		災害に強い学校づくり	-	-	5,407	-	5,407	
	フィリピン	フィリピン地域開発プロジェクト	36,146	-	-	-	36,146	
		台風ハイエン被災者復興支援	-	-	-	18,845	18,845	
	スリランカ	スリランカ地域開発プロジェクト	29,649	-	-	-	29,649	
		母子保健及び栄養改善	-	-	8,288	-	8,288	
		スリランカ洪水緊急支援・学校再開支援と心のケア	-	-	-	17,790	17,790	
	タイ	タイ地域開発プロジェクト	-	-	-	-	-	
		災害に強い学校づくり	12,931	-	2,821	-	15,752	
	東ティモール	東ティモール地域開発プロジェクト	3,953	-	-	-	3,953	
	ベトナム	ベトナム地域開発プロジェクト	67,109	-	-	-	67,109	
		少数民族の幼稚園・小学校教育改善	-	-	58,423	-	58,423	
		アジア小計	479,020	99,796	444,517	48,871	1,072,204	
	中東	ヨルダン	ヨルダン地域開発プロジェクト	13,833	-	-	-	13,833
			シリア難民の子どもの教育支援	-	-	14,702	-	14,702
		レバノン	レバノン地域開発プロジェクト	13,936	-	-	-	13,936
		中東小計		27,769	-	14,702	-	42,470

			プラン・スポンサーシップ オーダーメイド・プロジェクト ー口 100 万円プロジェクト	ガールズ・ プロジェクト	グローバル・ プロジェクト	緊急・復興支援	合計	
地域開発・ 緊急復興支援事業費	中南米	ボリビア	ボリビア地域開発プロジェクト	26,734	-	-	-	26,734
		ブラジル	ブラジル地域開発プロジェクト	12,469	-	-	-	12,469
		コロンビア	コロンビア地域開発プロジェクト	19,477	-	-	-	19,477
		ドミニカ共和国	ドミニカ共和国地域開発プロジェクト	14,778	-	-	-	14,778
		エクアドル	エクアドル地域開発プロジェクト	25,607	-	-	-	25,607
		エルサルバドル	エルサルバドル地域開発プロジェクト	22,197	-	-	-	22,197
		グアテマラ	グアテマラ地域開発プロジェクト	22,716	-	-	-	22,716
			ジェンダー平等促進プロジェクト	-	5,430	-	-	5,430
			小学校建設	-	-	9,964	-	9,964
			グアテマラ噴火緊急支援	-	-	-	763	763
	ハイチ	少数民族の栄養改善	-	-	34,768	-	34,768	
		ハイチ地域開発プロジェクト	2,681	-	-	-	2,681	
	ホンジュラス	水衛生環境改善	-	-	4,195	-	4,195	
		ハリケーン・マシュー被災者緊急支援	-	-	-	44,201	44,201	
	ニカラグア	ニカラグア地域開発プロジェクト	15,905	-	-	-	15,905	
	パラグアイ	パラグアイ地域開発プロジェクト	15,449	-	-	-	15,449	
	ペルー	ペルー地域開発プロジェクト	17,344	-	-	-	17,344	
	中南米小計			224,630	5,430	48,927	44,965	323,952
	東南アフリカ	エジプト	エジプト地域開発プロジェクト	44,592	-	-	-	44,592
シリア難民の子どもの教育支援			-	-	18,766	-	18,766	
エチオピア		エチオピア地域開発プロジェクト	30,378	-	-	-	30,378	
		女性性器切除から女の子を守る	-	79,841	-	-	79,841	
ケニア		ケニア地域開発プロジェクト	47,318	-	-	-	47,318	
マラウィ		マラウィ地域開発プロジェクト	10,573	-	-	-	10,573	
モザンビーク		モザンビーク地域開発プロジェクト	2,335	-	-	-	2,335	
ルワンダ		ルワンダ地域開発プロジェクト	3,848	-	-	-	3,848	
		差別をなくすジェンダー教育	-	8,242	-	-	8,242	
南スーダン		南スーダン地域開発プロジェクト	17,653	-	-	-	17,653	
		東アフリカ食糧危機緊急支援・食料確保および栄養・衛生改善	-	-	-	13,491	13,491	
スーダン		スーダン地域開発プロジェクト	22,154	-	-	-	22,154	
		国内避難民キャンプ水衛生改善	-	-	22,995	-	22,995	
タンザニア		タンザニア地域開発プロジェクト	26,684	-	-	-	26,684	
		ウガンダ地域開発プロジェクト	37,384	-	-	-	37,384	
ウガンダ		南スーダン難民緊急支援・衛生改善と子どもの保護	-	-	-	13,037	13,037	
		小学校建設	-	-	1,135	-	1,135	
ザンビア		ザンビア地域開発プロジェクト	9,896	-	-	-	9,896	
ジンバブエ		ジンバブエ地域開発プロジェクト	30,385	-	-	-	30,385	
	分娩待機室建設	-	-	10,885	-	10,885		
	若年層を中心とした HIV 感染予防と差別のない地域づくり	-	-	3,343	-	3,343		
	思春期の子どもに対する暴力防止・保護	-	-	11,101	-	11,101		
東南アフリカ小計			283,202	88,083	68,225	26,529	466,039	
西アフリカ	ベナン	ベナン地域開発プロジェクト	6,864	-	-	-	6,864	
	ブルキナファソ	ブルキナファソ地域開発プロジェクト	45,512	-	-	-	45,512	
	中央アフリカ共和国	中央アフリカ共和国地域開発プロジェクト	1,221	-	-	-	1,221	
	カメルーン	カメルーン地域開発プロジェクト	25,038	-	-	-	25,038	
		難民への奨学金支給	-	-	53,750	-	53,750	
	ガーナ	ガーナ地域開発プロジェクト	18,105	-	-	-	18,105	
		小学校建設	-	-	256	-	256	
	ギニア	ギニア地域開発プロジェクト	19,903	-	-	-	19,903	
	ギニアビサウ	ギニアビサウ地域開発プロジェクト	7,451	-	-	-	7,451	
	リベリア	リベリア地域開発プロジェクト	1,359	-	-	-	1,359	
	マリ	マリ地域開発プロジェクト	12,989	-	-	-	12,989	
	ニジェール	ニジェール地域開発プロジェクト	7,696	-	-	-	7,696	
	ナイジェリア	ナイジェリア地域開発プロジェクト	1,285	-	-	-	1,285	
	セネガル	セネガル地域開発プロジェクト	41,375	-	-	-	41,375	
	シエラレオネ	シエラレオネ地域開発プロジェクト	3,801	-	-	-	3,801	
	トーゴ	トーゴ地域開発プロジェクト	20,290	-	-	-	20,290	
		若年層の女性の経済的自立	-	10,910	-	-	10,910	
西アフリカ小計			212,889	10,910	54,006	-	277,805	
PII 国際本部		その他	198,301	-	-	-	198,301	
日本		九州北部豪雨緊急支援	-	-	-	6,589	6,589	
小計			1,425,811	204,219	630,377	126,953	2,387,361	
国際相互理解促進・啓発事業費			175,068	-	-	-	175,068	
支援募集活動費			243,677	-	143,603	3,663	390,944	
寄付金取扱事務費			64,131	7,496	11,660	-	83,287	
事業費計			1,908,686	211,715	785,641	130,617	3,036,659	
管理費			88,186	9,359	18,109	1,925	117,580	
経常費用計			1,996,873	221,075	803,749	132,542	3,154,239	

注記：合計欄の横に、アルファベットが振られている事業は、以下の団体による助成により実施した費用を一部含みます。

A 外務省 日本NGO連携無償資金協力、B 外務省 草の根・人間の安全保障無償資金協力、C 外務省事業補助金、D ジャパン・プラットフォーム、E 国連世界食糧計画、F 米州開発銀行、G アジア開発銀行、

H 国連難民高等弁務官事務所、I 国際移住機関、J 国連児童基金、K スタンビック銀行

2018 年度プラン・インターナショナル 国際連結決算報告

2017年7月1日～2018年6月30日

これらは、プラン・インターナショナル支援国、活動国、国際本部の連結した財務状況を表示しています。世界の皆さまからのご支援により、収入は8億3280万ユーロとなり、途上国の地域開発・緊急復興支援プロジェクトおよび政策提言、啓発等の事業に7億9348万ユーロを支出することができました。詳しくは、プラン・インターナショナルのウェブサイト <https://plan-international.org/>(英文)でご覧いただけます。

※1ユーロは約127円です（2018年6月30日現在）

科目	当年度	前年度
I 収益		
スポンサーシップ寄付金	352,442	358,346
受取助成金	297,900	291,907
現物助成金	43,216	70,942
その他寄付金	126,977	122,653
受取利息	2,873	2,889
事業収益	9,395	3,786
収益合計	832,803	850,523
II 費用		
プログラム費	592,890	638,633
支援募集活動費	108,448	118,128
管理費	88,191	79,992
収益事業費	3,953	3,515
為替損益計算前支出合計	793,482	840,268
為替差損(益)	6,863	△1,526
費用合計	800,345	838,742
III 包括損益		
当期損益差額	32,458	11,781
退職給付引当金見積変更	△103	△177
有価証券評価損益	516	555
外貨換算調整	△4,906	△4,683
当期包括損益差額	27,965	7,476

科目	2018/6/30	2017/6/30
	317,585	285,270
	37,696	30,929
	2,141	3,927
	40,554	45,498
	9,289	12,032
	1,385	1,673
	408,650	379,329
	5,664	6,214
	600	600
	946	1,011
	18,771	19,270
	7,863	11,042
	792	823
	34,636	38,960
	443,286	418,289
	1,276	657
	25,755	28,256
	30,660	32,847
	-	5,152
	9,521	3,680
	22,866	22,265
	90,078	92,857
	1,630	1,713
	958	1,475
	4,075	3,664
	6,663	6,852
	96,741	99,709
	130,445	76,351
	201,586	227,549
	14,514	14,680
	346,545	318,580
	443,286	418,289

プログラム費国別内訳 (この表は監査を受けていません) (単位: 1,000 €)

		保健	性と生殖に 関する健康 と権利	教育	水と衛生	家計の安定	子どもの 保護	子どもの 参加	緊急支援	開発教育	スポンサーシップ コミュニケーション	合計
アジア	バングラデシュ	3,446	2,242	654	2,624	267	1,214	329	4,588	-	364	15,729
	カンボジア	4,102	202	924	2,206	223	477	556	642	-	445	9,776
	中国	808	-	74	32	425	1,229	365	513	-	377	3,823
	インド	1,469	2,707	3,478	1,205	1,036	3,836	20	834	-	508	15,093
	インドネシア	373	37	6	409	1,023	579	483	1,374	-	1,007	5,291
	ラオス	234	57	2,194	544	-	64	277	-	-	56	3,428
	ミャンマー	381	-	114	222	178	356	△ 22	6,137	-	△ 31	7,335
	ネパール	650	151	2,407	767	629	1,474	492	3,919	-	719	11,208
	パキスタン	36	182	528	6,167	2,799	236	269	291	-	347	10,857
	フィリピン	324	147	649	187	1,122	947	824	2,916	-	221	7,336
	スリランカ	234	-	457	18	401	96	253	471	-	262	2,192
	タイ	81	254	161	48	20	562	487	617	-	434	2,663
	東ティモール	240	25	78	414	23	123	270	965	-	317	2,454
	ベトナム	827	5	2,262	704	902	937	321	972	-	522	7,451
地域統括事務所（タイ）	△ 19	-	183	14	307	210	115	512	-	58	1,380	
アジア小計	13,184	6,009	14,170	15,562	9,353	12,339	5,040	24,753	-	5,605	106,014	
中東	ヨルダン	-	-	-	-	-	-	-	1,559	-	-	1,559
	レバノン	-	-	-	-	-	-	-	258	-	-	258
	地域統括事務所	-	-	-	-	-	-	16	244	-	-	259
	中東小計	-	-	-	-	-	-	16	2,061	-	-	2,077
中南米	ボリビア	618	1,034	194	37	440	466	377	199	-	1,174	4,538
	ブラジル	623	308	289	47	160	642	441	2	-	632	3,144
	コロンビア	1,971	45	-	-	2,124	2,359	1,705	99	-	219	8,523
	ドミニカ共和国	631	10	388	2	217	546	291	488	-	366	2,938
	エクアドル	206	278	758	-	348	287	452	400	-	390	3,120
	エルサルバドル	577	3,377	1,431	-	1,534	882	62	552	-	316	8,730
	グアテマラ	70	534	1,763	13	478	426	566	288	-	450	4,587
	ハイチ	936	76	845	186	132	35	111	562	-	44	2,926
	ホンジュラス	294	101	1,176	291	97	1,026	766	39	-	747	4,535
	ニカラグア	800	650	71	29	295	532	341	414	-	189	3,321
	パラグアイ	158	48	272	-	661	391	692	268	-	368	2,858
	ペルー	1	144	163	110	838	40	466	1,071	-	383	3,216
	地域統括事務所（パナマ）	-	158	-	-	10	16	2,516	73	-	155	2,928
	中南米小計	6,886	6,763	7,348	713	7,334	7,646	8,787	4,454	-	5,433	55,363
東南アフリカ	エジプト	361	1,396	386	8	1,606	900	982	2,430	-	625	8,695
	エチオピア	3,165	140	1,182	1,975	647	915	579	4,667	-	696	13,966
	ケニア	3,874	1,347	2,576	412	1,538	5,568	654	3,823	-	1,413	21,205
	マラウイ	1,574	1,603	1,116	469	394	1,799	131	6,819	-	149	14,052
	モザンビーク	680	870	374	-	295	83	235	1	-	384	2,922
	ルワンダ	704	-	403	30	79	362	283	621	-	312	2,795
	南スーダン	252	△ 0	598	446	481	465	209	641	-	310	3,402
	スーダン	27	-	572	43	475	246	14	12,819	-	173	14,369
	タンザニア	1,808	887	1,684	729	1,881	1,597	546	2,186	-	672	11,989
	ウガンダ	729	546	544	1,055	767	729	753	1,762	-	145	7,032
	ザンビア	210	1,051	1,098	266	688	633	229	54	-	520	4,749
	ジンバブエ	1,444	299	922	422	3,387	1,829	478	3,264	-	325	12,370
	パンアフリカ	-	-	-	-	-	146	732	-	-	-	878
	地域統括事務所（ケニア）	-	-	-	-	104	50	1,929	376	-	0	2,459
東南アフリカ小計	14,827	8,138	11,455	5,854	12,342	15,323	7,753	39,465	-	5,725	120,883	
西アフリカ	ベナン	1,190	2,603	526	0	272	714	290	36	-	306	5,937
	ブルキナファソ	577	646	3,834	505	1,270	293	71	664	-	1,216	9,077
	カメルーン	3,651	122	1,021	39	1,211	576	349	6,027	-	494	13,489
	中央アフリカ共和国	-	-	1	-	-	△ 1	-	11,725	-	-	11,725
	ガーナ	2,560	7	2,864	349	445	122	221	43	-	139	6,749
	ギニア	3,799	197	1,595	406	611	516	231	380	-	507	8,242
	ギニアビサウ	534	65	334	30	105	130	135	252	-	385	1,970
	リベリア	5,007	-	432	105	981	73	60	18	-	201	6,877
	マリ	162	3,507	1,504	658	299	483	13	1,381	-	728	8,734
	ニジェール	2,889	43	2,424	253	63	1,346	259	1,362	-	245	8,883
	ナイジェリア	4,808	600	680	12	2	1,249	90	4,381	-	-	11,822
	セネガル	3,682	56	878	669	225	402	368	-	-	666	6,945
	シエラレオネ	19	△ 19	2,662	△ 282	97	208	106	47	-	136	2,974
	トーゴ	1,288	288	791	310	232	785	467	△ 14	-	388	4,535
地域統括事務所（セネガル）	-	-	39	-	-	43	617	412	-	24	1,134	
西アフリカ小計	30,165	8,114	19,585	3,054	5,814	6,937	3,278	26,712	-	5,434	109,094	
調整項目	18,001	7,521	13,851	6,744	9,834	11,407	7,207	26,235	-	6,070	106,871	
活動国合計	83,063	36,546	66,409	31,928	44,678	53,653	32,081	123,679	-	28,266	500,303	
支援国	10,680	7,579	9,388	2,599	6,649	17,880	6,414	12,208	6,046	-	79,443	
国際本部	1,483	709	1,362	842	1,065	1,296	3,835	1,822	-	730	13,144	
合計	95,226	44,834	77,159	35,369	52,392	72,829	42,330	137,709	6,046	28,996	592,890	

PLAN INTERNATIONAL ANNUAL REPORT 2018

2017/7~2018/6

プラン・インターナショナルの目標

私たちは、子どもの権利が守られ、女の子が差別されない
公正な社会を実現する

私たちは世界中の人々とともに、以下の活動を行う

1. 子どもや若者・地域社会が、女の子や、疎外され弱い立場にある人々への差別の根本原因を断ち切り、変革できるよう力づける
2. 子どもたちが直面している課題に対し、私たちの知識や経験を生かして、地域や国・国際社会が政策や意識・行動を変えていけるよう促す
3. 子どもたちや地域社会が、自然災害や紛争などの危機的状況に備え、対応し、困難を乗り越えられるようともに働く
4. 子どもたちが、誕生から大人になるまで、安全な環境のもと、健やかに成長できるよう支える



公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22

サンタフェセンタービル 10F & 11F

TEL : 03-5481-6100 FAX : 03-5481-6200

www.plan-international.jp

表紙撮影地名：バングラデシュ

この冊子は、一冊あたり約 33 円で製作されています



「アカウンタビリティ・セルフチェック 2012」を取得しています。本財団は、国際協力 NGO センター (JANIC) のアカウンタビリティ基準の4分野 (組織運営・事業実施・会計・情報公開) について適切に自己審査しています。

